



「第39回定期大会」の発言等に踏まえた 申し入れを提出！

地本は「第39回定期大会」を開催し、職場現実の声に踏まえて向こう一年間の運動方針を満場一致で確認しました。大会では、乗務中の不祥事に対して、多くの代議員から「原因究明を通じて自らを律し、相互指摘をしていかななくてはいけない」「指摘をし合いながら不祥事を発生させない」と不祥事を繰り返さないために、自らに矢印を向けて原因究明を行っていくという発言が出されました。一方、「発覚から一週間での懲戒解雇は早くて重すぎる」「異例の早さでの処分に対して、今後、懲戒処分が濫用されるのではないか」と声が出されているように、原因究明を行わず、処分ありきかのような責任追及の会社姿勢では、組合員・社員が安全で安心して働ける環境をつくることはできません。

また、安全や施策について、「内房線感電死亡事故発生から1年以上経過したが、箆口令が敷かれているのか、その後のことは何も伝えられない」「みどりの窓口閉鎖や要員の見直しが実施されたが、お客さまが増えたため、見直された要員では業務が回らない」「駅設備が故障して、職場で要求しても改善されない」「房総特急全車指定席化により車掌業務の負担が増えている」「乗務経験のない車両のハンドル訓練を行わず、安全が担保できるのか」など、これまで労使で築き上げてきた安全第一の職場風土が脅かされていることは看過できません。

地本は「新生JR東労組運動宣言」のもと、組合員一人ひとりが施策に向き合いつつ「安全・健康・ゆとり」が実現できることを前提に運動を進めています。組合員・家族の幸福と会社の発展を実現するために、下記のとおり申し入れました。

《申し入れ項目》

1. 労使の議論経過を踏まえ、くり返し発生しているハラスメントや暴力行為を撲滅し、安全で安心して働ける風通しの良い職場風土を確立すること。
2. 乗務中にワイヤレスイヤホンを装着して運転した不祥事について、再教育や十分な原因究明を行わず、即刻懲戒解雇とした見解を示すこと。
3. 人間労働において誰もが生じる乗務中の眠気に対して、会社の対策を明らかにすること。
4. 音漏れや湿気等により慢性的な睡眠不足の原因になっていることから、木更津統括センター乗務ユニット他区乗務員宿泊所と上総一ノ宮運転士乗務員宿泊所を建て替えること。
5. 西船橋駅のみどりの窓口廃止、及び市川駅の運営体制見直しによる要員数の削減が組合員・社員の業務量の増加につながり、負担が増していることから、各駅一般交代を1人増とすること。
6. コロナ禍以降、訪日旅行者の増加によって業務量が逼迫していることから、成田空港駅の体制は5徹2日勤を確保すること。
7. 各職場において要員が不足している実態が、出面数管理により明確にならないため、労使議論に必要な要員を示すこと。また、多くの職場で休日勤務が多発している課題を解消すること。
8. 千葉駅10番線ホーム東京方の列車接近表示灯の故障は、作業に従事する組合員・社員の命に関わることから、安全衛生委員会の議論を踏まえ、早急に修繕すること。
9. 成田統括センター佐倉乗務ユニットと銚子乗務ユニットにおいて、E259系のハンドル訓練を行わずに乗務をさせていることから、乗務経験のない車両を運転する際は、ハンドル訓練を必ず実施すること。
10. 昨年、内房線上総湊駅～竹岡駅間で発生した感電死亡事故について、原因究明や再発防止について議論されていることを早急に示すこと。
11. 房総特急全車指定席化に伴い、座席未指定券をご利用のお客さまのトラブルが多く発生していることから、E257系とE259系に座席上方ランプを設置すること。
12. 車掌の業務負担軽減、及びサービスレベル向上のため、指定席券売機を横芝駅と御宿駅に新設し、東京駅の京葉地下3階コンコースと錦糸町駅ホームに増設すること。また、千葉支社内で活用されていないマルス端末を銚子駅に移設し、みどりの窓口を開設すること。
13. お客さまのえきねっと誤操作によって、特急列車の車内でのお客さま案内に時間を要することから、システムを改善すること。また、えきねっとで予約した特急券の不正使用の対策を講じること。
14. 個人情報保護法の観点から、車掌の呼名放送を廃止すること。また、「JR東日本グループカスタマーハラスメントに対する方針」について、どのように運用していくのか明らかにすること。
15. 昇職試験の受験にあたっては、本人の意向を尊重し、強制的な懲遷を行わないこと。
16. 統括センターにおける過半数代表者選挙の開票について、公正・公平の観点から拠点駅に投票用紙を集め、開票すること。

「安全・健康・ゆとり」ある職場と施策を実現するために団体交渉を行います！